

レタス根腐病（レース2）の耕種的な被害軽減対策

【1 成果の概要】

- (1) 品種「ブラッシュ」、「シーカー」は、レタス根腐病レース2に実用的な耐病性があり、本病の被害軽減に有効です（図1、図2、図3）。
- (2) 本病耐病性品種を栽培しても発病が多い場合は、転炉スラグによる土壌 pH 改良技術（改良目標 pH7.5）の導入を検討してください（図3）。



図1 レタス根腐病の被害状況（左）と耐病性品種を栽培した翌年の状況（右）※同一圃場の空撮画像

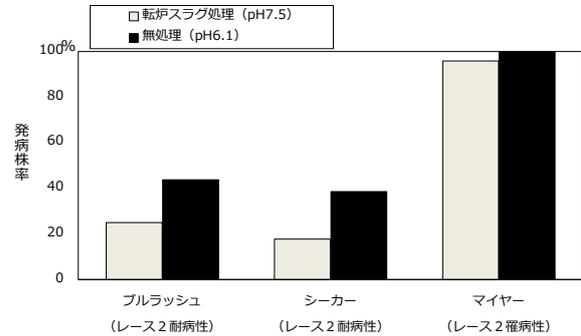
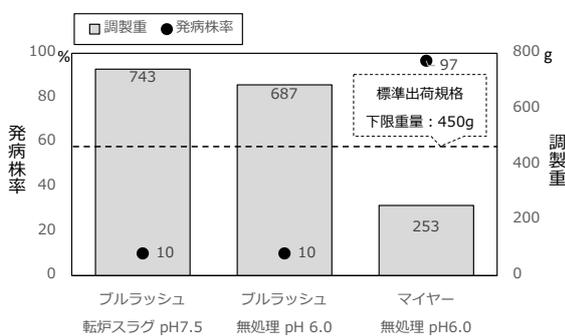


図2 現地試験における耐病性品種と転炉スラグを用いた土壌 pH 改良による被害軽減効果

図3 セルトレイ試験における耐病性品種と転炉スラグを用いた土壌 pH 改良による被害軽減効果

【2 留意事項】

- (1) レタス根腐病に対する品種の耐病性は、レースの種類によって反応が異なります。このため、耐病性品種導入の際は、作付け圃場の発生レースを確認する必要があります。
- (2) 土壌 pH 改良技術を導入する場合、転炉スラグの処理量は土壌緩衝能曲線を作成したうえで決定してください。また、土壌改良深は 15cm 以上とすることが重要です。10cm 改良では、圃場耕起作業によって深層土壌との混和が生じやすいため、次作以降の pH 維持が困難です。
- (3) 圃場に転炉スラグを処理する場合は、アルカリ効果により地力窒素の発現が高まるため、施肥量はやや少なめにしてください。